

明第1地区

根本、小根本、岩瀬、旭ヶ丘、相模台、胡録台、緑ヶ丘、野菊野団地、みなづき、松戸新田、仲井町、稔台、吉井町八柱自治会、寒風台、京流

明るい福祉

明第1地区社会福祉協議会

第 66 号

令和3年11月15日
発行・編集 広報部会
松戸市上本郷3018-1
明市民センター内
電話 368-0517



いあいまつり

会長 川井清晶

秋晴の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より明第1地区社会福祉協議会にご理解、ご協力を賜わり厚く御礼を申し上げます。

今年度の事業も緊急事態宣言の為、中止とせざるを得ない中、結婚50周年事業については緊急事態宣言中感染者数の増加中ということもあり、

秋晴の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より明第1地区社会福祉協議会役員訪問によるお祝いと記念品の手渡しが行えず、やむを得ず宅配といたしました。結婚50年の皆様には改めておめでとうございます。

原稿作成中に緊急事態宣言が解除され飲食店や各種行事も自粛要請が緩和され人流も増え、皆様におかれましても感染対策をしながらも徐々に動かれていますと思いますが、報道によると今年度はインフルエンザの流行、新型コロナウイルス感染症の第6波が起る可能性というのはいまのところありません。

明第1地区社会福祉協議会役員訪問によるお祝いと記念品の手渡しが行えず、やむを得ず宅配といたしました。結婚50年の皆様には改めておめでとうございます。

原稿作成中に緊急事態宣言が解除され飲食店や各種行事も自粛要請が緩和され人流も増え、皆様におかれましても感染対策をしながらも徐々に動かれていますと思いますが、報道によると今年度はインフルエンザの流行、新型コロナウイルス感染症の第6波が起る可能性というのはいまのところありません。

最後に、皆様におかれましても引き続き各種感染対策（マスク着用・消毒・換気等）に留意されますようお願い申し上げます。

地域で支える福祉の推進

ふれあいと支え合いのある
心豊かな福祉社会を目指して



居場所づくり ステーション設置をめざして

松戸市地域共生課

地域共生課では、誰一人取り残すことのない地域共生社会の実現に向けて居場所づくりに取り組んでいます。近年、高齢化や人口減少により、地域、家庭、職場といった生活領域における支え合いの基盤が弱まっています。

そこで、地域での孤立を防止し、社会とのつながりをつくる「まっどDEつながるステーション」を創出します。

「まっどDEつながるステーション」とは、地域の方が担い手になり、誰もが参加でき、ゆるやかなつながりを持つきっかけとなる場所です。

こうしたつながりにより、生活領域における支え合いの基盤が弱まることを防ぎ、地域住民が気にかける意識の醸成を図ることで、孤立防止に結びつくものと考えています。

地域共生課は市内15地区ごとに1ヶ所以上の「まっどDEつながるステーション」の創出を目指します。各地区の多様な主体にご参画いただき、「実行委員会」を立ち上げ、地区の現状や資源をもとにステーションの内容を検討してまいります。固

松戸市では、2021年9月現在電話での詐欺の件数127件。被害額は381,742,241円です。

詐欺被害に遭わない撃退方法の一つとして、ぜひ考えられてはいかがでしょうか。

電話 DE 詐欺被害に 遭わないための撃退機器を設置しませんか？

- ・松戸市在住65歳以上の方、又は、同一の世帯に属している方
- ・市税を滞納していないこと
- ・料金は2,000円(設置時に支払う)
- ・申込 TEL 0120-5454-25

わが町会・自治会の防災の取り組み

岩瀬自治会の防災について

岩瀬自治会会長 神田正昭

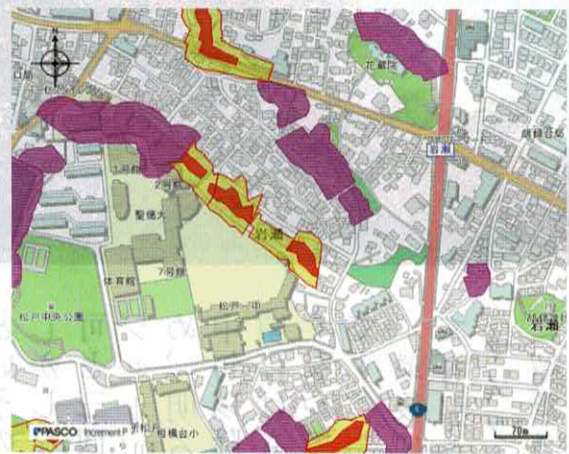
近年かつて経験をしたことがないような豪雨や大型台風が襲来するなど地球温暖化に起因する想定外の気象現象が珍しくなくなっています。また首都直下型大地震がいつやってくるかわかりません。風水害や大地震が岩瀬自治会に及ぼすリスクの一つに崩れがあります。

当自治会は相模台、国道6号線、6号線岩瀬交差点から花蔵院につながる台地部分とかつては水田であった低地部分から成り立っています。そのため市のハザードマップには数か所のがけ崩れの危険個所が表示されています。然るにそのような危険性がある場所であるにも関わらず、現在の防災計画は市の防災マニュアルに準拠した実効性がないものでした。

そこで当自治会では岩瀬の実態や特性に応じた防災計画の策定を今年度の重要テーマと決め、一年をかけて検討し、来年3月をめどに「岩瀬地区防災計画」を完成させ、市に提出することになりました。

まず初めに自治会会員全世帯を対象に岩瀬自治会地域の自然災害(地震や台風、大雨等)に対する防災・減災に関する意見や体験などをアンケート調査形式で聞きました。たとえば避難命令が出た場合「どこにどう逃げる?」「自治会館に逃げる?」「備蓄はしている?」「日頃からの感覚で「どこが危ない?」「ここなら一時的に逃げられる避難所になる?」「と言った実態調査からスタートしました。

次のステップとしては、アンケート結果を参考として、地域の情報を整理して、



岩瀬地区がけ崩れ危険個所マップ

どんな災害の危険性あるいは危険があるかを把握し、逃げる場所をどこにするか?できれば地図に落とし込んで自治会会員間の共通情報にすることとしました。また一時避難場所、指定避難所を岩瀬自治会独自で決めることにしました。そのために必ず必要になることは災害発生後の自治会の役割の範囲・体制・分担を明確にすることだと考えました。そして共助の範囲と実施体制の確立、個別に住民が対策すべきことを明確にすること(自助に関する助言等)を目指しました。

今後の作業としては9月、12月、どう逃げるか?」「どう過ごすか?」を念頭に、

【役員会にて】
逃げられる場所の地主、管理者への依頼、自治会館等の取り扱いの決定

【取り組み】
防災訓練による見直し

【役員会にて】
運営実施体制の確立1月～3月
全体取りまとめ

【区長会にて】
計画内容の確認:合意にもとづき決定のタイムスケジュールを予定しています。

根本第八町会の防災について

根本第八町会会長 小島守雄

当町会は、松戸駅西口より200m、300mくらいで江戸川と坂川に挟まれた地域にあり、世帯数は、約500所帯の町会です。

地震について

当町会で用意している物は、発電機、投光器、延長コード、テント、リヤカー、地区会より頂いた便袋、軍手など。

基本は、近隣町会が中部小学校に、避難所を立ち上げる事となっております。

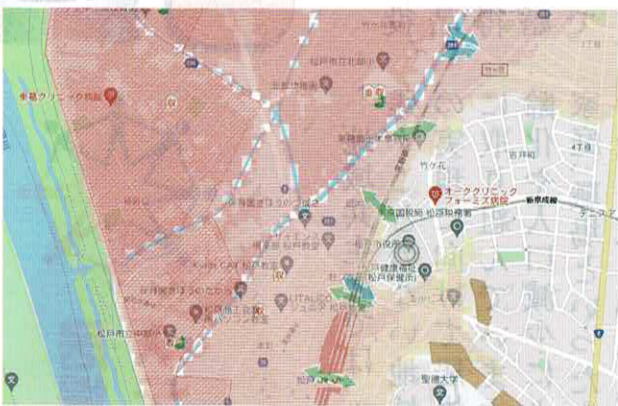
防災組織(役員、役割分担)は、予め決定し組織表も細かく決めてありますが、コロナウイルスによる影響で改廃が進んでいない所でもあります。

防災訓練も防災フェスタとして、松戸まちづくり会議の協力をいただき毎年行ってきましたが、コロナウイルスによる影響で2年続きで中止となりました。

【水害について】
前記のように江戸川と坂川に挟まれた当町会は、ハザードマップによると江戸川が決壊すると4～5mの浸水となるようです。

当町会では、町会内の大きなマンションに非常時には、オートロックを解除し、町会住民が垂直避難できるようお願いしております。

常磐線西側地域の人口は、10万人います。南部小学校、中部校、



江戸川流域のハザードマップ

小学校、北部小学校、古ヶ崎小学校、旭小学校など避難所は全て浸水になると思われ、松戸市との意見交換会にて中部小学校体育館の多層階化をお願いしました。

松戸市からの返答は、教育委員会が教育施設の建設を行うことになっていないが予算がないとの事。

数日後、驚いたことに具体的な代替地も決まらずに中部小学校の水害時避難所指定を、取り消すという暴挙にでた松戸市危機管理課に説明を求めました。

市の説明によると水害時の垂直避難所を今後、企業などをお願いして行くとの事で当時(2年前)決まった場所は、松戸競輪場くらい?隣の駅?老人や子ども、など避難困難者が大雨の中、避難する姿を想像すると堪えがたいものがあります。

このままでもいいのでしょうか。地球温暖化の影響にて異常気象、災害報道での予想外という言葉は、聞き飽きました。

今後も松戸市との意見交換や話し合いがあれば、他の町会や地域の方々と危機感をもって水害対策に対応するようにお願いしてまいります。

あとがき

今年度より、明第一地区社会福祉協議会副会長を拝命しました。また協議会の広報部会を担当することになり、11月15日号では要請を受け、防災に関する記事を書かせていただきました。テーマは「岩瀬地区防災計画」としましたが、まさしく現在取り組んでいる岩瀬自治会の今年度の重要課題として、現在進行形で取り組んでいる内容で、現在比較的小規模に書き進めることができました。岩瀬地域に特化した防災計画ですが皆様のご参考になれば幸いです。

神田正昭